

「地域おこし協力隊が見つけた」

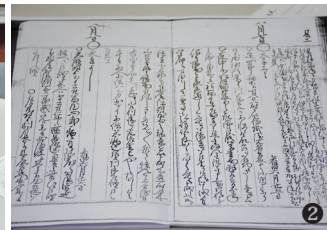
しらたかの鉄人! 達人!



①



③



②

①研究会の様子。この日の教材は『おくの細道 芭蕉自筆本』。皆川さんを講師に一字一句、丁寧に読み込んでいく
②明治時代の町内の様子が書かれた「戸長日誌」を解説する。写真は明治7年8月7日、8日の文章 ③日誌の内容を解説してくれた。戸長の仕事の幅広さに驚く



「古文書の研究」

皆川 清彦さん (横田尻・76歳)

「歴史の断片を未来へつなげる」

町の歴史を知るためには、遺跡の発掘をはじめさまざまな方法がありますが、一番身近なものとは古文書ではないでしょうか。この古文書を読みましょう。白鷹町古文書研究会の皆川会長を紹介します。

皆川会長が古文書を読み始めたきっかけは「江戸時代の庶民が普通に読み書きしていた文字を読めないことが悔しかった」からだと言います。以降、町の古文書研究会に入会し、14年余り古文書に触れてきたそうです。

「古い文書を読むと、例えば江戸中期の荒砥の商人は四十代で隠居して、趣味の世

皆川さんや研究会の皆さんが文書を読みながら、幼かった頃の町並みについて楽しそうに話していたのが印象的でした。古文書を通して歴史に触れ、世間話に変換できたら町内どこにいても楽しめそうです。皆さんも古文書読みにチャレンジしてみませんか。

界を楽しんでいたことも分かる。こういった各時代、各層の暮らしを知ることがおもしろい」と熱く語ります。また、長く続けてこられた理由は、研究会の講師佐藤興七先生の人柄や、個性豊かで魅力的な会員に恵まれたからだと楽しそうに話します。

白鷹古文書研究会では地元
の文書を解説し、読み下したものを冊子として残しています（町立図書館にも寄贈）。「これからも地元の貴重な文書を発掘して、活字として形に残す活動を続けていきたい」と語る皆川会長の目は輝いていました。



地域おこし協力隊
石井紀子さん

▼まちづくり複合施設の工事が始まりました。役場の2階からも工事の様子がよく見えるので、仕事の合間について窓から外を見てしまいます。
▼普段見ることのない世界は「見ていない」だけで、意外と身近にあるものです。私ももっといろんなものに関心を持って、いろんな世界を発見していきたいと思えます。
▼なお、工事に伴う駐車スペースの制限や一部区間の通行止めなどが生じています。皆様にはご不便をおかけしておりますが、安全に工事が進行されるようご理解とご協力をお願いいたします。
▼本誌の6〜7頁をご覧ください。皆さまと、結婚前からお子さんが中学生になるまで、町ではどのような支援を行っているかが一目でわかると思います。子育て世代の皆さんの中には、さまざまな悩みや不安を感じている方も少なくはないはず。お子さんの健やかな成長のために町が行う支援をご活用いただき、ご要望等がありましたらお気軽にご相談いただけます。私もまず婚活からスタートです。(てつか)

SELF JUDGE
編集後記